

I 全般的な財務状況の説明

1) 資金収支計算書

① 資金収支計算書

資金収支計算書とは、学校法人の各年度における諸活動をお金の動きに着目して表したものです。教育研究に対する資金の使途（資金支出）とこれに対する資金の調達（資金収入）が明らかにされています。

令和 7 年度における施設・設備関係支出は、新潟医療福祉大学での健康データサイエンス学科開設や事業創造大学院大学での情報デザイン学部開設に向けた設備・備品の取得ならびに既存校舎の改修工事などが主なものとなっております。

それらの施設設備支出にあたっては当年度の自己資金で行ったこともあり、翌年度繰越支払資金は昨年度比 693 百万円、12.3%の減となりました。

② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書とは、その資金収支計算書を「①教育活動による資金収支」「②施設整備等活動による資金収支」「③その他の活動による資金収支」の 3 つの活動区分別に表示した計算書で、企業会計のキャッシュ・フロー計算書（営業活動・投資活動・財務活動）のように活動ごとの収支状況を明確にするために作られたものです。

教育活動資金収支差額は昨年度比で 74 百万円、5.5%減となりましたが、支払資金全体への影響としては問題ないものといえます。

2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書とは、経営状況を表すものであり学校法人会計基準において「当該会計年度の教育活動、教育活動以外および臨時的な収支ならびに基本金組入額を表示し均衡の状態を明らかにするために行う」と規

定されております。

令和 7 年度は、新潟医療福祉大学における学科新設の年次進行（令和 5 年度鍼灸健康学科、令和 6 年度心理健康学科）による学生生徒等納付金の増加、修学支援制度の対象者区分拡大による補助金収入を要因として、教育活動収入計が昨年度比で 891 百万円、8.6%増となりました。

学科新設による人件費・経費の増加、学校法人会計基準の改正に伴う賞与引当金の計上の義務化などにより、基本金組入前当年度収支差額は昨年度比で 39 百万円、23.3%減となりましたが、学年進行に伴って解消される影響です。

3) 貸借対照表

貸借対照表とは、一定時点(3 月末現在)の財産の状況を明らかにする計算書類であり、教育研究活動を行うために必要となる資産の保有状況とそれらの資産の取得源泉である負債、基本金および繰越収支差額を対照して、その充足状態を計る仕組みです。

令和 7 年度は、新潟医療福祉大学で健康データサイエンス学科開設や事業創造大学院大学での情報デザイン学部開設に向けた設備・備品等の取得を行った為、昨年度比で資産は 505 百万円、1.5%減、負債は 635 百万円、6.1%減となり、純資産は 130 百万円、0.5%増加いたしました。

なお、流動負債のうち、1,591 百万円は新入生からの授業料等の前受金であり、新年度には学生生徒等納付金として収入に振り替えたうえで教育研究活動の費用に充てられていくものです。学校法人会計基準により負債へ計上していますが、弁済義務のあるものではありません。